

わたしとあなた…。それぞれが「愛」と「優」の心をいつも大切に。おたがいを認め、支え合うまち・京都を。

I You Kyoto

【あい・ゆー KYOTO】

人権情報誌
Vol.42
2011.5



◆輝きピープル…………… 2

児童福祉運動家「夜回り先生」

水谷 修さん

がんばらなくていいんだよ

◆特集…………… 4

京都市国際文化市民交流促進
サポート事業を実施しています

◆「我ら、企業市民」(企業インタビュー) … 6

②9株式会社ファーマフーズ

「素材」から魅力を見い出し、つながり
さらなる「縁」と「夢」を生む

◆人にやさしい誰もが利用しやすい
お店を増やそう!!…………… 8

企業向け人権情報誌 ベーシック

2011.5 55

京都市文化市民局

BASIC

憲法月間の5月は「人権情報誌あい・ゆー KYOTO」と「企業向け人権情報誌ベーシック」の合併号



教職のかたわら一人深夜の街を回り、闇にのみ込まれる子どもたちに手を差し伸べてきた水谷修さん。20年に及ぶ活動の間に“夜回り先生”的名は全国に広がり、少しづつ社会を動かす力になりました。子どもたちと向き合い続けるその目は今、何を捕らえているのでしょうか。

子どもを輝かせるのは大人の責任だ

夜回りを始めたのは定時制高校への赴任がきっかけでした。たぶん当時の日本で一番荒れていた高校でした。輝いていて当然なはずの子どもたちが、そこではみんな悲しい目をしているのがたまなくてね。よし、俺が輝かせてやる!と決意しました。しかし、まともに学校に出て来ない子どもたちと人間関係をつくるにはどうしたらいいのか…考えた末に、彼らの居場所を回ることにしたのです。

以来20年、教師を辞め全国を講演で飛び回るようになった今も、夜になるとつい子どもたちはどうしているか心配になって出かけてしまいます。だから日本中の都市部で知らない街はあ

ません。京都も数えきれないくらい回っていますよ。

僕が子どもたちに一番よく言う言葉は「いいんだよ」です。強制も否定もせず、どんなことも子ども自身が考えて、決めてもらう。なぜなら人は自分で歩いて、自分でぶつかって、自分で立ち上がって生きなきゃならない。僕たちはその一生を支え続けることは決してできないから。自分で歩かせるまでに、時間はかかります。でも僕の教育の本質は、ただそばにいて待つことなんです。否定しない、だから子どもたちからも否定されない。「いつも心配そうにそばにいる奴で、うざったい気がするけど…でもいるんだよな」ってね。その一方で、僕は子どもを見本になる生き方をしたい。横を見

た時に、いつも僕が定点でそばにいながら人間として当たり前の生き方をしている、そこから学んでくれればと思ってやってきました。

本当は全ての人がそう生きるべきなんだと思います。今の人が子どもによく言う言葉って、「駄目だよ」「考えろ」「がんばれ」…でしょう。日本中の大人が「こうあるべきだ」と画一的な価値観を押しつけようとしている。でも、そうじゃない。100人の子どもには100の道があって100の可能性がある。その一つひとつを大事にすることが、個としての子どもを本当に大事にすることなんじゃないかと思うんです。

心を病む子どもたちがますます増える社会

この20年の間に、子どもたちを取り巻く環境も子どもたち自身も、大きく変わりました。これからは子どもが暴れる時代はほとんど来ないでしょう。そんな元気がないし、暴れさせないだけの社会的対応が整ってきています。反面、暴れることができれば、心は病まない。それを無理に抑えこむと、結局一人で悩むしかなくなって、心の病が起き、自殺、リストカットがどんどん増えています。

閉じこもった多くの子ども、さらには大人たちが、人とのつながりを求めてすがるのがインターネットの世界です。あの仮想現実の中での人間関係が、さもリアルな人間関係であるかのように錯覚している。でも、そこには何の真実もありません。インターネットの向こうに広がる闇が、更に心の病を深めてしまったことは大問題です。

これに打ち勝つには、ネットに負けないくらいリアルな社会が楽しくあることが必要です。僕たちは、そこで勝負するしかありません。学校が楽しかったら、そこで自己実現できたら、どの子が夜の街に行く?どの子がネットでそんなに暗いサイトに行くんだと。家庭でも同じことです。お父さん、お母さんと話をしたりお手伝いしたりすることが一番楽しかったら、ネットもゲームもテレビも必要ない。でも現実には、お母さんはお父さんの悪口や愚痴ばかり、お父さんはテレビの世界に入っている…そんな環境だと、やっぱりネットやゲームの世界に逃げ込むしかない

でしょう。

僕はこのままだと大変なことになると危惧しています。5年後には子どもたちが大量に死ぬ社会になる。引きこもり、ニートと言われる社会的に孤立した人たちの犯罪が増えてくる。国家としても大きな危機を迎えることになるでしょう。

大切なのは人のつながり、そして信じること

今、一説によると引きこもりや不登校の人が百数十万人いると言われています。これにどう気付いて、どう社会復帰への手伝いができるかです。世の中で一番寂しいのは忘れられることです。忘れた人たちをつくってはいけないんです。そのためにはその子たち自身が相談するのは無理でも、子どもたちを抱え必死に悩んでいる親たちに働きかけることが大事です。「あなたたちは一人じゃない。行政も大人たちも、あなたたちのために動けるんだ。まずは相談してくれ」というサポートが必要です。「誰もあなたたちを忘れないといいし、ここに行ったら仲間がいるよ」というような、今まで地域や学校が果たしてきたものに代わるコミュニティづくり、人ととのつながりづくりが緊急の課題です。

人は一人では生きられません。だからこそ、リアルに向き合い信じ合う関係を築いてほしい。教育の基本も、信じることです。とことん信じられる人間は、最終的には信用に応えようとするものです。僕が強く生きられるのも、子どもたちに信頼されていて、それを裏切らないように生きている

から。僕は何も怖くないけど、子どもたちから「嘘つき」と言われることだけが怖い。そうならないために、きちんと眞面目に生きる。これが信じられていることの強さです。

余談になりますが、実は僕自身、中学時代から学生運動に身を投じ、高校の時には夜の世界に入っていたんです。高校の同窓会で担任に言われました。「お前の母さんはすごかったよ。『こんなことをやっていればこの子は駄目になる』って言った時、『うちの子は大丈夫です。今はいろんなことがあっても、この子は自分で自分の道を決められますから』と返されたんだよ」と。母が私を否定せず、信じて見守ってくれたことが、今につながっているのかもしれませんね。

信頼のないところには、何も存在しません。特に大人たちはもう一度それを肝に銘じ、信じることの大切さ、素晴らしさを知るきっかけを、子どもたちに与えてほしいと思います。

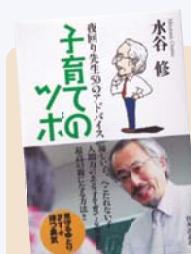
Profile

みずたに
水谷
おさむ
修さん

1956年横浜市出身。上智大学文学部哲学科卒業。元高等学校教諭。在職中から現在まで、子どもたちの非行防止や薬物汚染の拡大防止のために「夜回り」と呼ばれる深夜パトロールを行う。一方でメールや電話の相談に応じ、不登校・心の病・自殺などの問題にも取り組む。講演活動やメディアを通じて子どもたちが抱える問題を広く社会に訴え続けている。現在、花園大学客員教授。第17回東京弁護士会人権賞受賞(2003年)。「夜回り先生」、「さよならが、いえなくて」他、著書多数。

Present

水谷修さんの直筆サイン入り著書
『夜回り先生50のアドバイス 子育てのツボ』を2名様に差し上げます!



ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号と「いいゆーKYOTO Vol.42」へのご意見・ご感想(必須)をお書きのうえ、平成23年6月3日(金)(当日消印有効)までに右記応募先へお送りください。抽選結果の発表は発送をもって代えさせていただきます。

[応募先]

〒604-8571
(住所不要) 京都市人権文化推進課
「いいゆーKYOTO Vol.42 書籍プレゼント」係

特集

～京都市国際文化市民 交流促進サポート事業 を実施しています～

京都市では、外国籍の人や、外国にルーツをもつすべての人が暮らしやすい「多文化が息づくまち・京都」をめざして、様々な取組を進めています。

その取組の一つとして、「京都市国際文化市民交流促進サポート事業」を実施しています。この事業は、京都市内の様々な団体の催しや研修などに外国籍の（もしくは外国にルーツのある）登録者を派遣し、多文化交流の活動を行っていただくプログラムです。

市内の団体からのご依頼に応じて、外国の暮らしや考え方を話したり、音楽や料理、舞踊など外国の文化を紹介したりできる登録者をご紹介します。研修や講演会で地域の外国籍の方や外国にルーツのある方からお話を聞いてみたい、地域のイベントで外国文化の紹介・体験を取り入れたいという際に、是非ご利用ください。

ご利用にあたって

利用要件 京都市内の団体に限ります。

謝礼 交通費等の実費相当額を依頼者にご負担いただきます。

派遣時間 2時間程度までお願いします（応相談）。

受付期間 イベントの2ヶ月前までにお申込みください。

※申込先は
次ページ下を
ご参照ください。

どんな方が登録しておられますか？

※登録者リストはホームページからご覧いただけます。
<http://www.kcif.or.jp/interactsupport/supporters>



※平成23年3月末現在、11ヶ国18人の方々に登録いただいております。

こういった企画にご利用ください

●地域の外国籍の方等を講師に

地域で暮らす外国籍の方や、外国にルーツのある方をイベントや研修などの講師に招いてみませんか。同じ地域に暮らす講師の方と交流することで、多文化の共生について考えるきっかけづくりになります。



●異文化理解をテーマに

外国出身の方による音楽や舞踊の紹介、料理教室など、実際に体験してみることで異文化をより身近に感じることができます。



～多文化が息づくまち・京都～

京都市には、100を超える国々の約4万1千人の外国籍の方が暮らしています。在日韓国人・朝鮮人の方や、留学生、研究者、就労・研修のために来日した人々等、日本で生活しておられる理由も様々です。また、外国籍の方以外にも、日本国籍を取得した人や日本人との国際結婚により生まれた子どもなど、多様な文化的背景をもつ方が生活しています。

さらに今後、国際化が進み、また少子高齢化によって日本の労働人口が減っていくなかで、外国からますます多くの方が来日し、居住することが見込まれます。

こういった外国籍や外国にルーツをもつ人も含めたすべての人が暮らしやすいまちづくりを進めるためには、言葉の壁をのり越えるための取組や、教育・福祉などの生活支援を充実させるだけでなく、市民ひとりひとりが国籍や文化の多様性を認め合い、お互いの人权を尊重することが大切です。

京都市では、外国籍や外国にルーツをもつすべての人が地域社会で活躍することで、あらゆる市民がより豊かな生活を送れる、「多文化が息づくまち」をめざしています。



申込・お問合せ

◆京都市国際化推進室

TEL 060-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 222-3072 FAX 222-3055

E-mail kokusai@city.kyoto.jp

◆財団法人 京都市国際交流協会

TEL 060-8536

京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1

TEL 752-3511 FAX 752-3510

E-mail office@kcif.or.jp



※詳しくは、ホームページをご覧ください。 <http://www.kcif.or.jp/interactsupport/guides>

「我ら、企業市民」㉙

株式会社ファーマフーズの場合

西京区の桂イノベーションパークに、京都市Aランク認定^(*)のベンチャー企業の中で初の上場を果たしておられる株式会社ファーマフーズをお訪ねしました。

総合研究所開発部長の堀江健二さん、本社営業所長の谷典子さん、総務部部長の新谷義信さんに、「京都発世界へ」、成長を目指取り組んでおられることについて、お話を伺いました。



写真左から、堀江健二さん、谷典子さん、新谷義信さん

(平成23年2月取材)

「素材」から魅力を見い出し、つながりさらなる「縁」と「夢」を生む

Q 始めに貴社の概要についてお聞かせください。

当社は、「人を良くする」と書く「食」にこそ健康維持と生活の向上に役立つ重要な機能があるという考え方の下、身近な食品から得られる安全で安心なバイオ素材や製品を開発する健康維持の総合サポートを事業として、1997年（平成9年）に設立しました。

社名のファーマフーズ（Pharma Foods International）は、「医薬（Pharmaceuticals）」と「食（Foods）」の融合に由来しています。例えば、世界で多く食されている卵は、21日間あたためるとヒヨコになる、つまり生命に必要な全ての成分が凝縮されているバイオカプセルだととらえ、このものを活用した素材を開発し、全世界の「健康と長寿」に貢献したいと考えています。

京都を拠点に、国内では東京営業所、韓国に関連会社、中国、インド、エジプトに現地事務所を持ち、社員は31名（うち女性社員14名）、平成22年7月期の売上高は959百万円です。

Q 事業について具体的にお聞かせください。

当社は、日常の身近にある「卵」「米」「乳酸菌」「野菜」等の食品について研究し、健康に良い様々な機能を持つ素材を開発することを主な仕事としています。また、食品メーカー等と組んで、製品づくりにも携わっています。

例えば、京都で生まれた「麹」と「京野菜」という2つの伝統技術を組み合わせ、酵素の作



上：本社1階の食品展示に並ぶ国際色豊かな製品の数々
下：開発部の研究の一風景

用で京野菜の栄養価を余すことなく發揮させる「京野菜」の開発に成功しました。これは、京ニンジン、聖護院かぶら、堀川ごぼうの3種を麹発酵したのですが、採用され京風ヨーグルトとして製品化されました。

胃の中のビロリ菌に結合して体外に排出する働きを持つニワトリの抗体「オボプロン」は、日本や韓国の乳業メーカーでヨーグルト飲料に採用され、エジプトやヨルダンではサプリメントとして販売されています。これは、ニワトリが卵に免疫物質を詰め込みヒヨコへ受け継ぐ免疫システムを利用し、「母ニワトリの優しさシステムの賜物」です。卵黄（きみ）に届け…という想いで開発しました。歯周病対応する製品も実用化され、今年中には、京都府立医科大学等と進めているインフルエンザの感染を抑える食品素材を発表する予定です。

Q 企業理念について御紹介ください。

「みんなにやさしいバイオの夢」を心に、先にお話しました「医薬と食の融合」と、「共生・共存」及び「多文化共生」の三つを掲げています。

「共生・共存」は、「あらゆる個性が共に生き・共に支え合い・共に栄えるパートナーシップを構築しよう」ということ、「多文化共生」は、「異文化の共存と交流、伝統文化

と先進科学の統合を通じて新たな価値を創造する”ことを、目指しています。

当社は、安全な製品を安心して皆様に食していただけるよう、分かりやすくお伝えすることも、責務であると考えています。

例えば、アミノ酸の一種GABA(ギャバ)を高純度化した製品「ファーマギャバ」は、リラックスや睡眠を促す効果を持ち、国内では「GABAチョコレート」等の菓子の他、飲料やサプリメントに採用されています。また海外では、北米で「relaxmax(GABA)」という飲料が発売されています。このGABAのリラックス・ストレス軽減効果については、次のような取組をしました。

昨年度に「笑いを科学する」と題して、吉本興業（株）さん、江崎グリコ（株）さんと協力して、「GABA+笑い」健康プロジェクトを発足。GABAと「笑い」が融合することにより、どのような効果が得られるのかを社員を対象に検証し研究を深めました。元立誠小学校では「GABA寄席」を1年間にわたり全6回開催し、皆様にお伝えしています。



GABA
立誠寄席の様子

また、「たまご研究会」を、学界、食品業界、医療業界等の幅広い分野と連携・協働し、毎年開催。身近な「卵」の不思議を、分かりやすく多くの方々に説明し、健康な生活の向上に役立てていただきたいと、取組を続けています。

妊娠の葉酸不足が原因とされる、先天的障害の出生児が先進国で唯一増加していることを受け、「一般社団法人 葉酸と母子の健康を考える会」を設立。多くの女性に周知するため、女子大生が献立や調理法を工夫して料理を競う「葉酸たまご甲子園」も開催しています。

Q 社員が能力を発揮できる環境づくりについては？

当社には、総務部、営業・LSI事業部、開発部、生産管理室がありますが、社長室はなく、皆が机を並べ、「さん」付けで呼び合い、気軽に意見を交換できる環境で仕事をしています。やる気のある人材を積極的に登用し、本人には、努力次第で重要な仕事が任せられ、学会への参加などの様々なチャンスが与えられます。

社内報「我ら！PFI」では、国内外の社員や仕事の紹介をしていますが、vol.9で近況報告をしている3名が現在、産休・育休中です。そのうち2名は2回目、3回目の取得です。フォローアップは本人や職場と相談して決めますが、今回も同僚やチームがサポートしています。制度が整っていても周りに気を遣い利用できないのは意味がありません。当社は「取って当たり前」「戻ってきて当たり前」という職場風土です。谷のように、復帰後に所長になっている者もおります。

海外からのインターンシップも、今までに、ノルウェー、イギリス、フランス、中国、韓国、エジプトなどから受け入れ、エジプトの方は、帰国後、当社の現地事務所でビジネス活動をしています。デモが起った際には、無事な知らせに私も喜び、心底ほっと致しました。

他に、社内セミナーや、金曜日には英語教室も開催して学んでいますが、「しっかり働き・遊び・休む」ことが仕事の効率を高めると考えていますので、毎週1回はノーカンパニーを設けて定時退社を促進。ボーリングやバーベキュー大会、慰労会等の活動を通じ、ワークだけでなく、ライフの充実も図っています。

Q 地域社会とのつながりについて、御紹介ください。

本社は、京都盆地が見渡せる高台にあり、坂を少し上がるところに京都大学の桂キャンパスがあることから、大学や学生とのつながりも多く、研究の相談や共同でプロジェクトを進めています。

京都市立芸術大学も近所で、学生さんが、本社の前で京の街のスケッチをしておられたので、本社のベランダを提供したことがあります。毎日通われ、立派に完成した大きな作品を個展に出展され、御招待いただいた時は、感激しました。同大学からは彫刻の学生さん8名を紹介いただき、大きな岩を削り、卵と地球をイメージするオブジェを造ってもらいました。弊社を訪問される国内外のお客様にも好評で、皆様、記念撮影をされます。学生さんからは、その時のアルバイト料を元手に欧州留学されたと、お便りをいただきました。



中国 大手食品メーカーの来社記念撮影

また、本社の庭は、大文字の送り火時に一般開放しています。地域の方々が集まって来られたことがきっかけです。昨年は取引先様の御協力も得、飲み物やお菓子などを無料で御提供し、300名ほどの方々と共に過ごしました。

当社は、「ここには夢がある笑いがある」を合言葉にしています。社員が、仕事の中で様々に交流・交換し、人々の心も身体も元気にするようなバイオ素材を開発し、皆様に御提供することができ、心の底から自然に笑え、誇りを持って働く会社でありたい。それには、他者との連携・協働は欠かせません。きっかけは各々「御縁」があつて言うほかないので、これらすべての縁が今につながっています。これからも一つひとつの縁を大切にして深め、関係するすべての人々に、夢と笑いを提供できる会社であり続けたいと思います。

本日は貴重なお話をありがとうございました。

（*）京都市ベンチャー企業目利き委員会のAランク認定
ベンチャー企業の発掘・育成を目的とし、優秀なビジネスプランを提案した企業をAランクと評価し、融資などの各種支援を実施する制度

人にやさしい 誰もが利用しやすい お店を増やそう!!

京都市では、ものづくりの分野で広がりつつある「年齢、性別、言語、習慣、心身の状態にかかわらず、すべての人にとって利用しやすい」というユニバーサルデザインの考え方をサービスの分野でも広げるため、京都市内の店舗や商店街での「人にやさしいサービス」活動の普及に取り組んでいます。



みんな買い物のときにどのようなことで困っているの?

[高齢の方の困りごと]

- 重い荷物を持って買い物するのはつらい。
- トイレが近くにないと不安。



[車いす利用の方の困りごと]

- 商品が高い位置に置かれていると見えにくく、取りにくい。
- テーブル間が狭すぎて車いすでは通れない。



[小さなお子様連れの方の困りごと]

- 整理整頓ができるていないお店、清潔さに欠けるお店は不安、外食ではアレルギーが心配。
- 授乳やおむつ交換ができるスペースがない。



[外国の方の困りごと]

- メニューには絵や写真がないとどんな料理か分からず。
- 宗教や慣習の理由などで豚肉や牛肉、その他の食材が食べられない場合がある。



[目の不自由な方の困りごと]

- 通路にはみだして物が置いてあるとぶつかってしまう。
- 説明時に「あれ」「それ」「むこう」などで示されてても分からず。



[耳・言葉の不自由な方の困りごと]

- 声をかけられても分からず(聞こえていないことに気付いてもらえない)。
- 発音が悪いので話が伝わっていないか不安。



人にやさしいお店ってどんなの?

<視点4> 表示が分かりやすいお店

チラシやPOPの文字の大きさ、色づかいなどが見やすいよう配慮されていること。看板や店内案内標示などが分かりやすいこと。

<視点3> 必要な援助ができるお店

段差を越えるための手伝いをする、遅い行動をゆっくり待つなど、状況に応じた対応ができること。

<視点2> 多様なコミュニケーションができるお店

外国语、筆談、手話、点字などなるべく多くの情報伝達手段を用いてお客様とコミュニケーションができること。

<視点1> 要望に応えられるお店

肢体の不自由な方、アレルギーなど食事に制約がある方など、お客様の状況や要望に応じて商品(製品や料理)を提供できること。

<視点5> バリアのないお店

入店、移動の支障となる段差がなく、広い入口や通路、多機能トイレが整備されていること。

「人にやさしいお店をつくろう」の発行

これまでお店等を利用できなかつた、またしづらかった方が、安心して買い物に行ったり、サービスを受けたりできる環境を整えることを目的に、店主の方向けに右記の冊子を作成しました。主な内容は以下の3点になります。

- 「人にやさしいお店」ってどんなもの?
- 様々なお客様が買い物や食事の際に困っていること
- 「人にやさしいお店」とするための取組のヒント



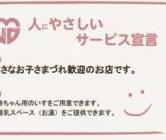
希望者には、郵送により送付いたします。
※冊子名と宛先(宛名、住所)を書いた紙、返信用切手を同封のうえ、以下までお送りください。
〒604-8571(住所不要)
京都市保健福祉局保健福祉総務課みやこユニバーサルデザイン推進担当
(返信用切手／1冊の場合200円、2冊の場合240円)

人にやさしいサービス宣言・優良建築物の顕彰制度を創設

京都市では、すべての人にやさしいまちづくりをハード・ソフトの両面で進めるため、「人にやさしいサービス宣言制度」と「みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度」を創設しました。

ソフト面「人にやさしいサービス宣言」

下記のステッカー及び宣言書を「人にやさしいサービス宣言」として、「人にやさしい」取組等をアピールしていただける店舗等に対して交付します。



ステッカー (12cm×12cm) 宣言書 (A3)

平成23年3月末現在、京都三条会商店街、伏見大手筋商店街の2商店街、また個別の店舗としては上記の2商店街内の店舗を含め42店舗が宣言しています。引き続き、他の商店街や業界団体等に宣言の働きかけを行い、情報発信に努めます。

ハード面「みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度」

バリアフリー条例の基準に適合した建築物に、市の「みやこユニバーサルデザインハートマーク」が入ったステッカー又はプレートを交付します。



詳しくは、保健福祉局保健福祉総務課 ☎222-3366, FAX222-3386 にお問合せください。(みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度について、都市計画局建築審査課 ☎222-3616, FAX212-3657へお問合せください。)

【お知らせ】

醍醐／展示

人権啓発書道展

◆憲法月間を迎えるに当たり、人権により身近に考えていただく契機となることを目的として、醍醐地域の小学生による「人権啓発書道展」を開催します。

●5月2日（月）～31日（火）8:30～17:00 ●醍醐支所2階ロビー
●無料 ●不要 ●醍醐支所まちづくり推進課
☎571-6135 FAX 571-2673

展示

「CAMBODIA」チャリティー写真展

◆カンボジアの子どもたちの明るい未来のためにチャリティー写真展を開催します。写真展を通じて、カンボジアの国、カンボジアの孤児やストリートチルドレンを支える施設、カンボジア・ライト・チルドレン・アソシエーションを知ったいため、少しでも子どもたちにお力を貸していただきたい、募金を募ります。募金は必要なだけの食糧、物資にかえてカンボジアスタッフが直接施設に届けます。

●5月4日（水・祝）～8日（日）9:30～20:30（最終日は17:00まで）
場 京都市国際交流会館（kokoka）2階 姉妹都市コナー・展示室（左京区粟田口鳥居町2-1）
●無料 ●不要 ●（財）京都市国際交流協会
☎752-1187 FAX 752-3510

東山／展示

小・中学生人権作品展

◆憲法月間区民啓発事業として東山区内の小・中学生による人権に関する絵画、標語、習字等を展示します。

●5月9日（月）～20日（金）8:30～17:00
場 東山区総合庁舎1階展示ホール ●無料 ●不要
●東山区役所まちづくり推進課 ☎561-9114 FAX 541-7755

中京／展示

人権啓発パネル展

◆テーマ：児童労働にレッドカード
「子どものトラフィッキング（人身売買）」をテーマに、全地球規模で深刻な問題となっている働くかされた子どもの現状と解決への取組を伝えています。

●5月9日（月）～27日（金）8:30～17:00
場 中京区役所1階 区民ホール ●無料 ●不要
●中京区役所まちづくり推進課 ☎812-2426 FAX 841-8182

上京／映画

上京区憲法月間 映画のつどい

◆映画「おとうと」（日本語字幕・音声ガイドあり）126分
◆バリアフリー上映に関するミニ講演 10分（第2部のみ）
●5月19日（木）第1部14:30～（14:00開場）、第2部18:30～（18:00開場） 同志社大学寒梅館ハーディーホール
●各部800名 ●無料 ●不要（直接会場にお越しください。）
●上京区役所まちづくり推進課 ☎441-5040 FAX 441-2895

下京／落語&講演会

人権を考えるつどい

◆落語家、笑福亭松枝氏による、人権・男女共同参画をテーマにした落語と講演。

●5月25日（水）14:00～ 場 池坊学園 こころホール（下京区室町通四条下る鶴町） 150名（先着順） ●無料
●5月15日（日）までに京都いつでもコール ☎661-3755
FAX 661-5855に申し込んでください。
●下京区役所まちづくり推進課 ☎371-7170 FAX 361-8893

洛西／講演会

こころのふれあいみんなの広場 増岡弘氏講演会

◆アニメ「サザエさん」のマスオ役や、「アンパンマン」のジャムおじさん役で知られる、声優増岡弘氏による講演会

◆テーマ：「サザエさん一家は幸福みつけの達人ぞろい」

●5月28日（土）13:00開演（13:00開場）
場 ホテル京都エミナース明治アーバーサリーホール
●定員400名（申込多数の場合は抽選） ●無料
●5月22日（日）までに京都いつでもコール ☎661-3755
FAX 661-5855に申し込んで下さい。（FAXには「増岡弘氏講演会参加希望」と記入のうえ、参加者全員の氏名、ふりがな及び代表者の氏名、郵便番号、住所、電話・FAX番号、手話通訳の希望の有無を明記してください。）申込締切後、参加可能な方（代表者）に入場券を送付します。※手話通訳あり（申込時に申請）
●洛西支所まちづくり推進課 ☎332-9318 FAX 332-8187

講 座

平成23年度開発教育入門セミナー

Think Globally, Act Locally ～「足もと」と「世界」をつなぐ

◆開発教育・国際教育の担い手を増やすためのワークショップ、世界の貧困や飢餓、開発など、様々な問題と、自分の住む地域や生活などを結び付けて考える開発教育・国際教育を実践していくための参加体験型学習の手法を学びます。

●5月8日（日）10:00～16:30 場 京都市国際交流会館 kokoka（左京区粟田口鳥居町2-1） 80名（先着順・要申込）
●無料（教材の展示、販売あり） ●独立行政法人国際協力機構 大阪国際センター ☎072-641-6904 FAX 072-641-6910

講 座

はじめての男女共同参画講座

◆「男女共同参画ってなに？」 「私たちの暮らしはどう関係しているの？」誰もが抱くそんな疑問について、ビデオや簡単なワークを通してみんなで考える講座です。男女共同参画について初めて学んでみようという方を対象に、用語の説明や社会背景について、やさしくお話しします。

●5月21日（土）14:00～（毎月1回開催） 場 京都市男女共同参画センター ウイングス京都（中京区東洞院通六角下る御射山町262）
●定員20名 ●無料 ●電話、FAX、E-mail、ウイングス京都HPからお申し込みください。実施日の1週間前までに応募者が5名未満の場合は開講しません。1週間前以降のお申込みについては、お電話にてお願いします。 ●（公財）京都市男女共同参画推進協会
☎212-8013 FAX 212-8014

OK企業登録募集

子どもたちの健やかな成長には、父親層の家庭教育への参加が必要不可欠です。そこで、京都「おやじの会」連絡会と京都市教育委員会では、父親の子育て参画に対して前向きに考える企業（事業者）を登録・認定する「O（おやじの）K（子育て参加に理解がある）企業」認定制度を推進しています。

詳しく述べ、京都「おやじの会」連絡会のホームページ（<http://www.kyoto-oyaji.jp/>）をご覗ください。
●教育委員会生涯学習部 ☎251-0456 FAX 222-2061



人権啓発活動補助金

京都市では、市内の市民団体やNPO法人等が自主的に実施する人権啓発活動に対して、補助金を交付することにより支援を行っています。

【対象となる啓発活動】

- 京都市人権文化推進計画に掲げる各重要課題に関するもの
- 広く市民に広報しているもの
- 京都市内で開催されるもの
- 特定の市民、地域を対象としているもの

詳しくはホームページをご確認ください。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-2-3-0-0-3.html>
●人権文化推進課 ☎366-0322 FAX 366-0139

申請は啓発活動実施日の14日前までです。ただし、事前相談が必要です。

「子どもを共に育む京都市民憲章」を実践しましょう！ ～憲章の実践推進に関する条例ができました～

京都市民共通の行動規範である「子どもを共に育む京都市民憲章」（平成19年2月5日制定）を社会のあらゆる場で実践するため、取り組むべき具体的な内容を定めた「条例」が今年4月から施行されました。

条例の主な内容

保護者、地域住民、育ち学ぶ施設（学校・児童福祉施設等）、事業者（企業等）、京都市等について、それぞれの責務や役割を規定。

憲章の行動理念を実践するための取組

- 保護者は、親育ちの機会を積極的に利用するとともに、規則正しい生活習慣を確立する。
- 地域住民等は、地域で子どもを見守り、困難を抱える家庭を支援する。
- 育ち学ぶ施設等は、子どもの体験活動や親として育ち学べる機会を提供する。
- 事業者は、仕事と生活の調和を図れる労働環境を整備し、子どもの健やかな成長を脅かす商品を提供しない。
- 京都市は、子どもの健やかな成長を脅かす社会環境を改善する。
- 毎年2月5日を「憲章の日」とし、憲章の実践推進者を「表彰」する。

子どもの命や育ちを脅かす緊急課題への取組

●「児童虐待」「いじめ」

予防、早期発見、迅速・適切な対応、再発防止のための対策

●「児童ボルノ」「薬物乱用」「性感染症」

防止のための啓発その他の措置

●「インターネットの不適切利用」

子どもの携帯電話等の必要性の検討

適切なフィルタリングサービスの利用

インターネット利用に関して子どもの取決め

●「電子・映像メディア依存」

子どもが過度に依存しない家庭環境づくり



詳しくはホームページをご確認ください。http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-3-1-0-0_3.html

学び、考え、深めて、日常につなげよう

人権の尊重とは、「一人ひとりの能力を十分に發揮できる環境をつくること」です！

～京都市主催・近畿経済産業局共催～ 平成23年度 「企業向け人権啓発講座(第1～3回)」を開催

参加費
無料

第1回 【定員】50名(先着順) 【申込期間】平成23年5月2日(月)～6月8日(水)

- 【日 時】平成23年6月15日(水) 13:30～15:30
【場 所】京都市下京いきいき市民活動センター 多目的ホール(3階)〔下京区上之町〕
【概 要】職場内人権啓発のすすめ(講演)
～計画や資料の作り方、進め方、PRのポイントを学んで、さらに魅力的な企業に～
【講 師】若林 源基 氏
〔財団法人 人権教育啓発推進センター 参与。平成22年5月末まで(株)電通人権啓発部長
法務省「人権啓発資料法務大臣表彰」審査委員等も務められた。〕

第2回 【定員】男女各々35名(先着順) 【申込期間】平成23年5月2日(月)～6月16日(木)

- 【日 時】平成23年6月23日(木) 14:30～17:00
【場 所】京都市男女共同参画センター「ウイングス京都」セミナー室A・B(2階)〔中京区東洞院通六角下る御射山町〕
【概 要】ワーク・ライフ・バランスを考える(講演・情報交換会)
～“仕事と生活の毎日には『理想』も『現実』もある”『現実』の確認から始めよう～
①部 「女子会」「男子会」に分かれて講演+情報交換会
～現状に関する講演を踏まえ、日常の『現実』について本音トークしてみよう～
講師&進行役「女子会」谷口真由美 氏
〔大阪国際大学現代社会学部准教授。専門は国際人権法、ジェンダー法
子育てに必要かつ効果的な支援策の検討にも関心を持ち、テレビ等でも活躍〕
「男子会」中村 正 氏
〔立命館大学大学院応用人間科学研究科教授。専門は社会学、社会病理学
“男を救い素敵な男をつくる”ことを主眼に「メンズサポートルーム」運営等も〕
②部 全体会で「女子会」「男子会」の発表を聞く
～各々の会から『現実』などについての意見を聞き、考えてみよう～

第3回 【定員】70名(先着順) 【申込期間】平成23年5月2日(月)～7月13日(水)

- 【日 時】平成23年7月20日(水) 14:00～16:30
【場 所】ハートンホテル京都 嵐山・高雄(2階)〔中京区東洞院通御池上る船屋町〕
【概 要】京から明日へのCSR(企業の社会的責任)(参加型講演・事例発表)
～CSRをチェックしてみよう！大企業・中小企業・あなたの会社～
①部 講演等：「京のCSRガイドライン」(「京都商工会議所」策定)について
～ガイドラインの解説と、自社の取組のチェック～
講師&進行役 島本 晴一郎 氏
〔京都文教大学人間学部教授。「京都CSR研究会」主宰
元 京都商工会議所 CSR特別委員会 専門委員〕
②部 事例発表：CSRの取組について
発表企業 日本写真印刷株式会社 [元 京都商工会議所 京都版CSRガイドライン策定小委員会 委員]
株式会社 茨木屋 [京都市オスカー認定企業(企業価値を高めようとする優秀な事業計画を有する企業)]

詳細につきましては、京都市人権文化推進課のホームページから企業啓発担当を御覧ください。

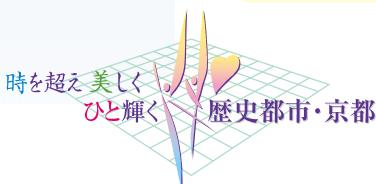
【申込方法】

京都市人権文化推進課もしくは、そのホームページ(企業啓発担当)から入手した申込書に必要事項を御記入のうえ、FAXで申し込んでください。 FAX: (075) 366-0139 (お問い合わせはTEL: (075) 366-0322へ)
※定員を超えた場合は、その旨をホームページに掲載し受付を終了しますので、あらかじめ御了承ください。

【個人情報の取り扱いについて】

いただいた個人情報は、京都市個人情報保護条例に基づき、他の目的に使用しないとともに厳重に管理します。
各回とも、公共交通機関を御利用のうえ、御来場ください。

昨年度の「企業向け人権啓発講座」の講演録等を京都市人権文化推進課ホームページにて公開しています。
御参照ください。



「人権情報誌あい・ゆ—KYOTO」Vol.42と「企業向け人権情報誌ベーシック」Vol.55合併号(2011年5月発行)

発行者 京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル3階

TEL(075)366-0322 FAX(075)366-0139

URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-2-3-0-0.html>(「市民啓発担当」「企業啓発担当」)

※この冊子は、ホームページでも御覧いただけます。

また、区役所・支所まちづくり推進課、市役所案内所ほかで配布しています。



京都国文祭PR隊長「まゆまる」

2011.10.29～11.6



この冊子は再生紙を使用しています。

京都市印刷物第233014号